

平成13年度(第7回) 病理検査研究班精度管理報告

千葉県臨床衛生検査技師会 病理検査研究班

喜納勝成 小野寺清隆 中村和昭 東 和彦

中山 茂 岸澤 充 西野武夫

精度管理実施要綱

目的 : 染色の良否ではなく、適正な処理法を身につける。

方法 : 固定材料を配布し、各施設での通常の方法で包埋・薄切・染色を行い、アンケートと共に標本を回収。

材料 : 解剖例 (15% 緩衝ホルマリン固定) の肝臓

症例 : 37歳、女性

アルコール性肝硬変、B型肝炎、劇症肝炎

死後 3時間

実施染色

HE染色

PAS染色

膠原線維染色

鍍銀染色

基本的には各施設での染色手順に従って染色してもらうが、膠原線維染色 鍍銀染色については、昨年までの精度管理で良好な施設のマニュアルを添付したので、それを参考にしても可とした。

平成13年度精度管理参加施設一覧

No	施設番号	施設名	No	施設番号	施設名
1	9120006	国立千葉東病院	21	9120112	化学療法研究所附属病院
2	9120008	国立千葉病院	22	9120113	千葉県循環器病センター
3	9120009	千葉社会保険病院	23	9120117	国立療養所下志津病院
4	9120010	千葉市立病院	24	9120128	千葉県救急医療センター
5	9120013	放射線医学総合研究所 重粒子治療センター	25	9120138	国保小見川総合病院
6	9120018	川崎製鉄健康保険組合千葉病院	26	9120171	船橋市立医療センター
7	9120029	千葉中央臨床検査センター	27	9120180	東葛病院
8	9120029	千葉労災病院	28	9120186	順天堂大学浦安病院
9	9120043	君津中央病院	29	9120194	江東微生物研究所千葉病理細胞診研究所
10	9120052	国立精神神経センター 国府台病院	30	9120208	千葉市立海浜病院
11	9120053	東京歯科大学市川総合病院	31	9120214	(株)サンリツ
12	9120056	社会保険船橋中央病院	32	9120217	東京歯科大学千葉病院
13	9120068	松戸市立病院	33	9120222	千葉徳洲会病院
14	9120077	浦安市川市民病院	34	9120234	千葉県こども病院
15	9120080	銚子市立総合病院	35	9120251	千葉西総合病院
16	9120081	総合病院国保旭中央病院	36	9120257	帝京大学医学部附属市原病院病理部
17	9120086	成田赤十字病院	37	9120271	千葉県がんセンター臨床病理部
18	9120089	国立佐倉病院	38	9120272	国立がんセンター東病院
19	9120100	亀田総合病院	39	9120288	日本医科大学千葉北総合病院病理部
20	9120108	千葉大学大学院医学研究院腫瘍病理学	40	9120328	千葉大学医学部附属病院病理部
			41	9120366	千葉県済生会習志野病院

染色標本の評価方法

昨年度と同様に各評価項目3点の配点として採点表を作成した。

•評価基準は、日本臨床病理学会認定病理技術士試験の採点を基準とした。

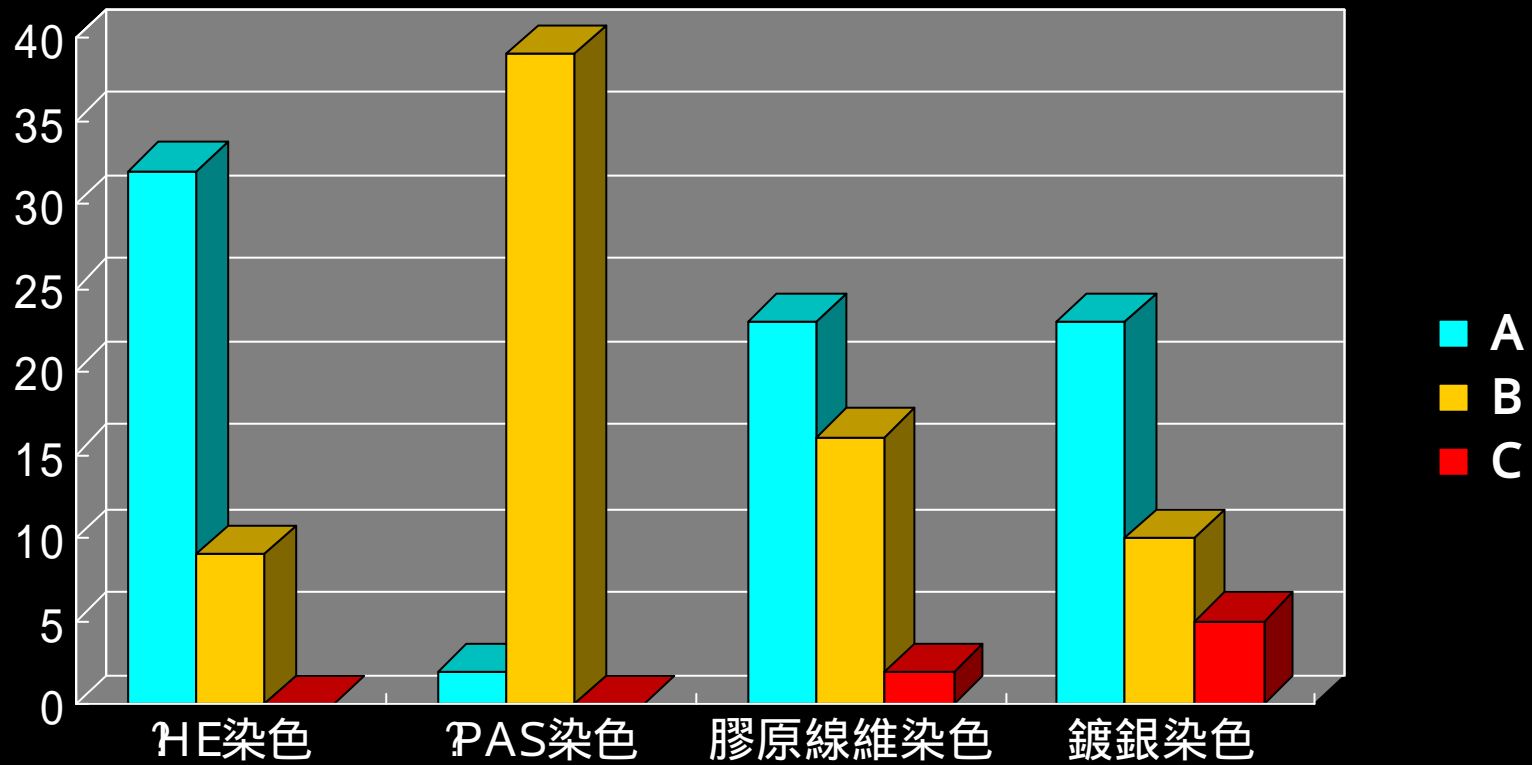
•評価は病理検査研究班研修会にて参加者全員で行なうこととしているが、予備集計として研究班委員5名で鏡検し、評価点を算出した。

•各染色の総合評価として、ABCの3段階評価も行なった。但し、特殊染色においては目的物質の染色性の評価が1点の場合、他の項目の採点にかかわらずC評価とした。

総合評価表

	A	B	C
HE染色	12~ 15	8~ 11	5~ 7
PAS染色	6	3~ 5	2
膠原線維染色	8~ 9	5~ 7	3~ 4
鍍銀染色	8~ 9	5~ 7	3~ 4

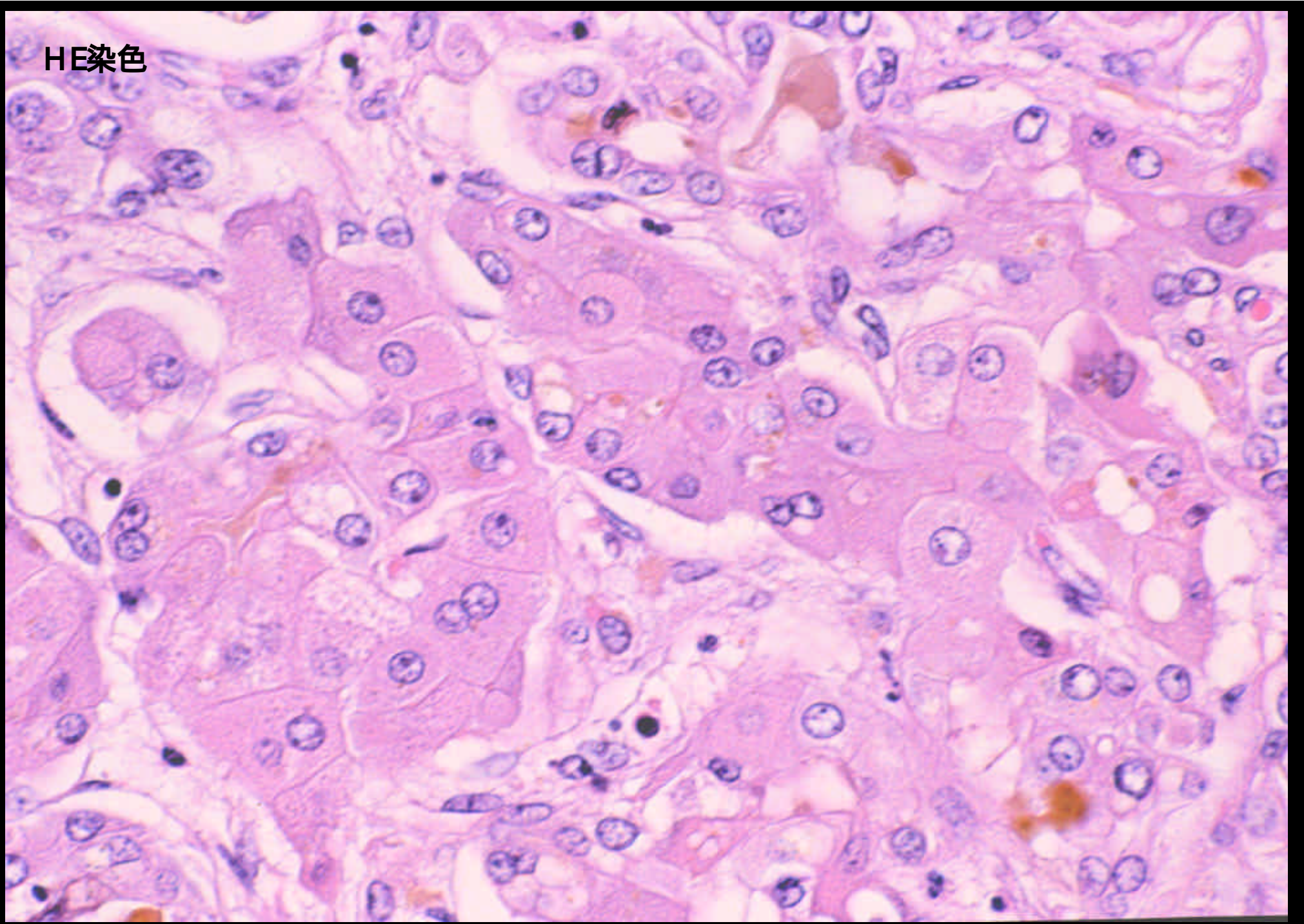
各染色の総合評価



HE染色標本評価表

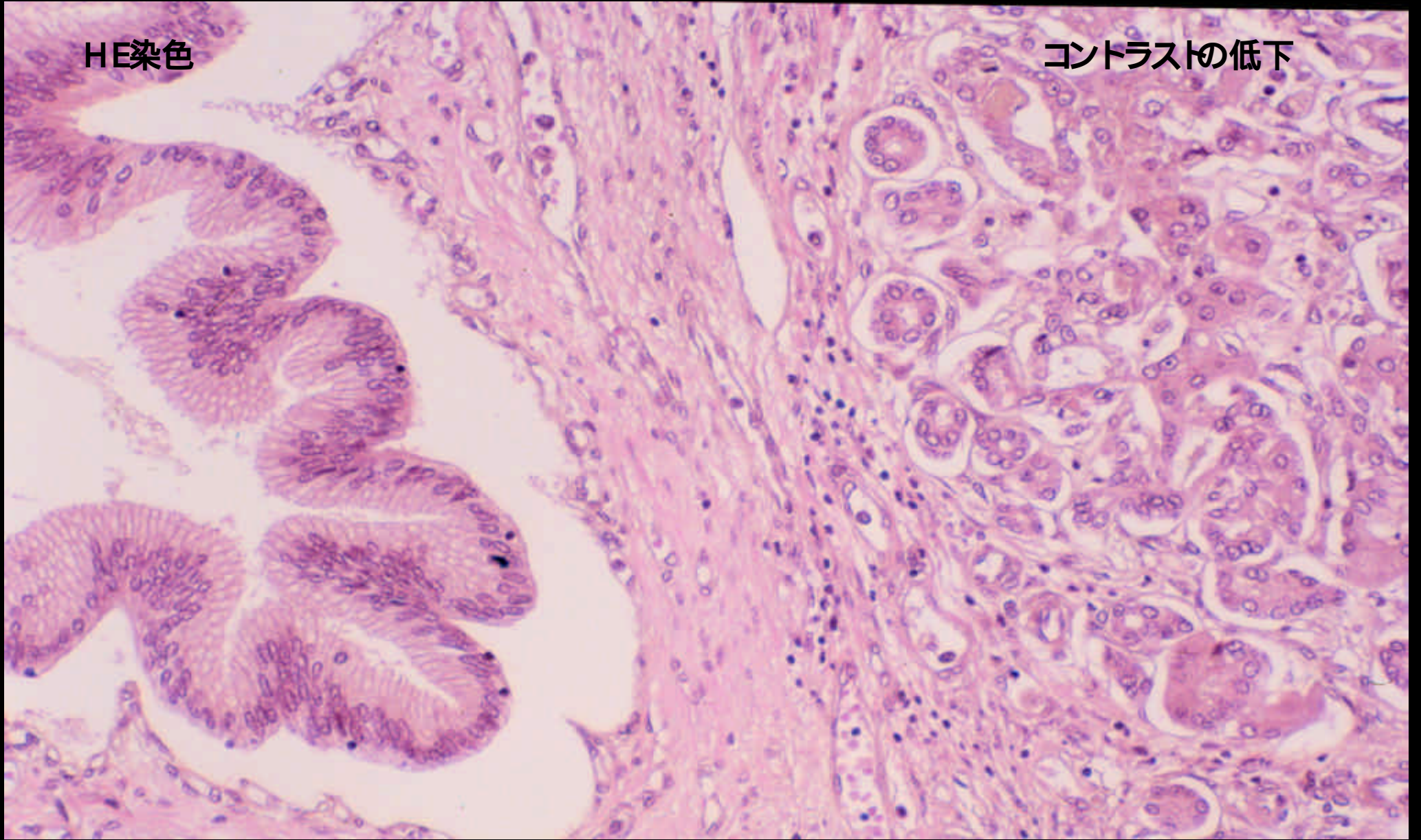
評価項目	配点
薄切 (厚さ・均一性・皺・載せ位置など)	3
ヘマトキシリンの染色性	3
エオジンの染色性	3
共染色の有無と程度	3
脱水不良の有無・封入操作	3
合計	15

HE染色

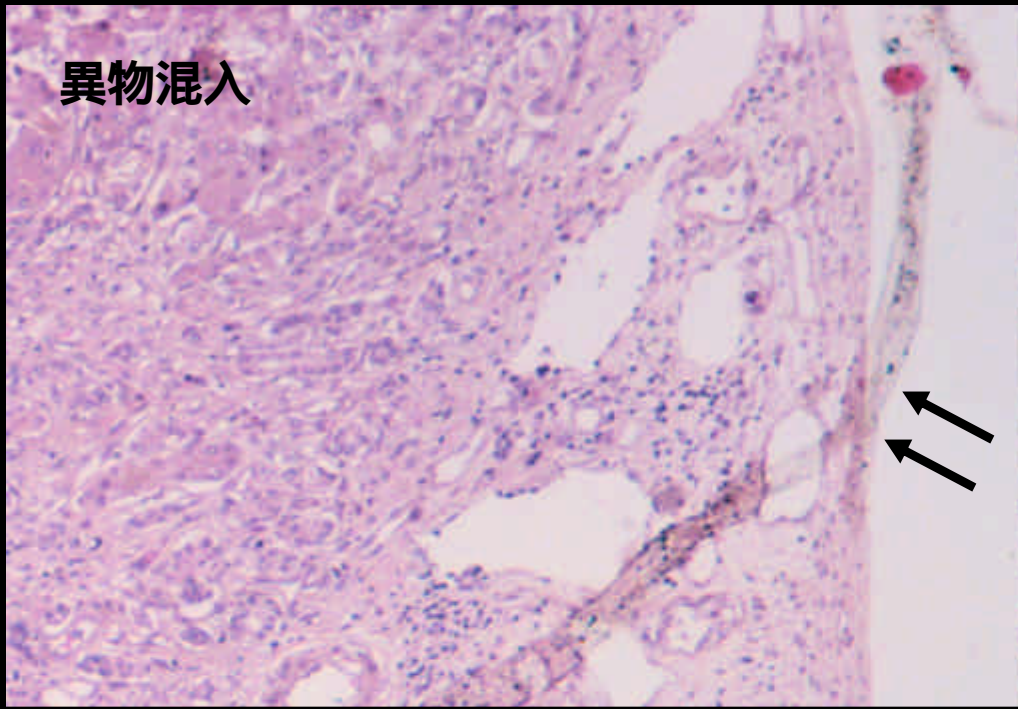


HE染色

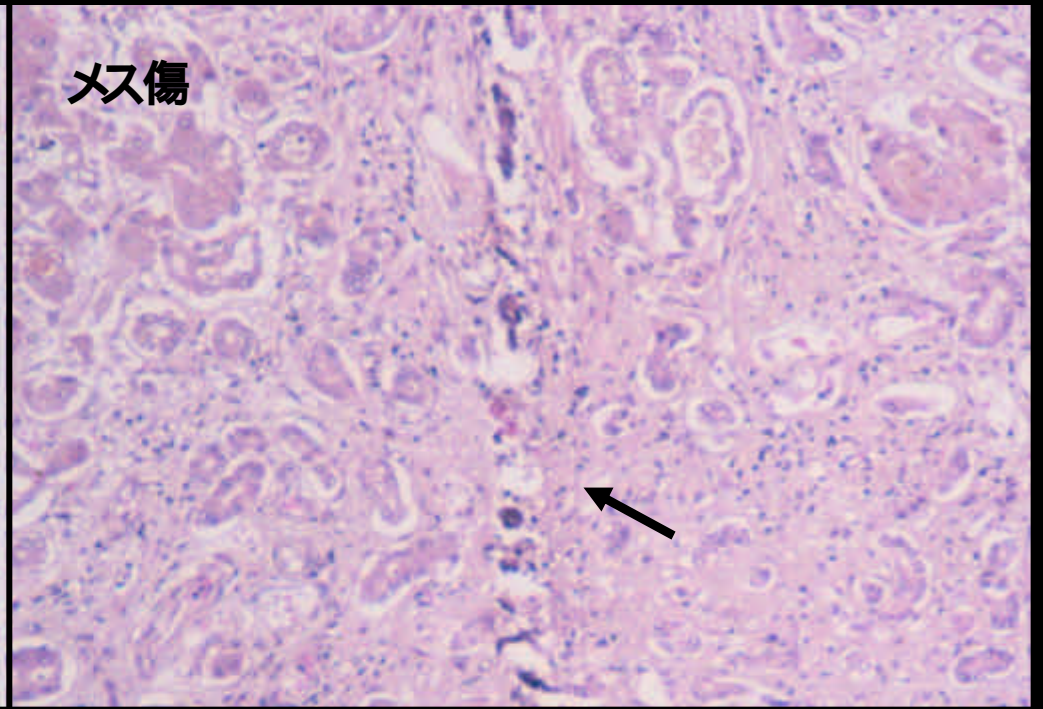
コントラストの低下



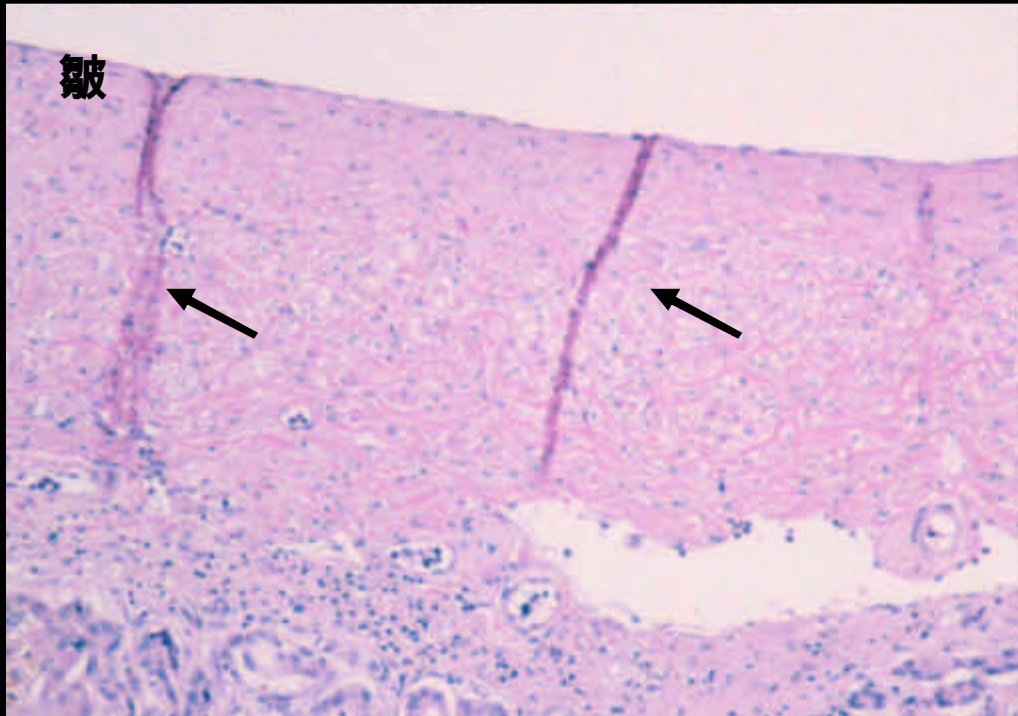
異物混入



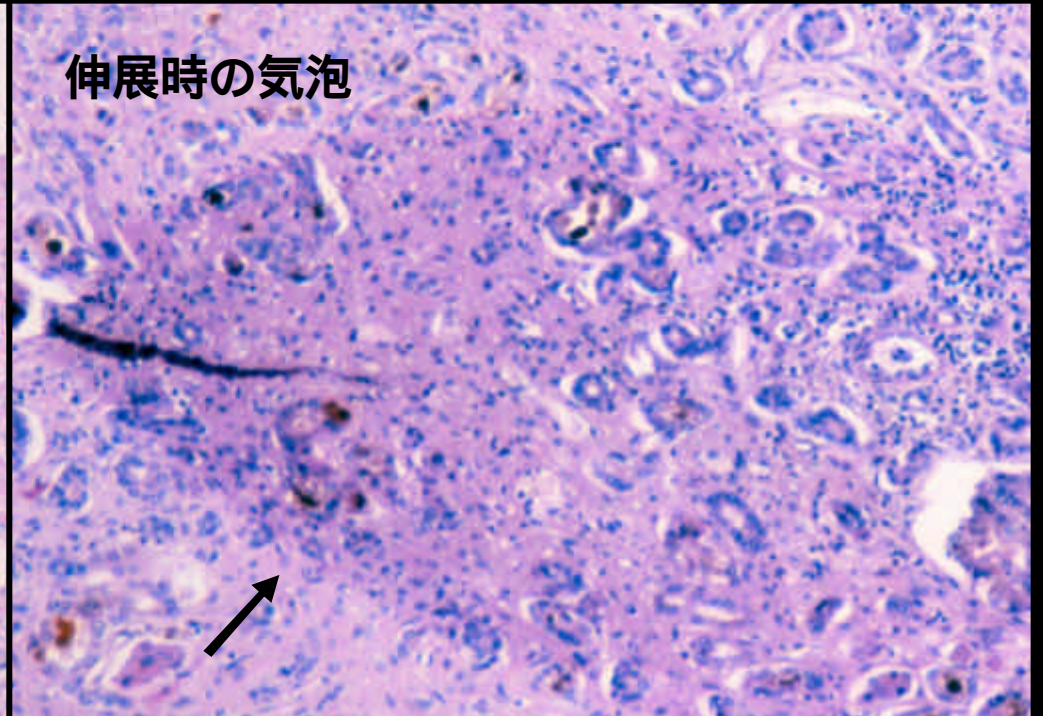
メス傷



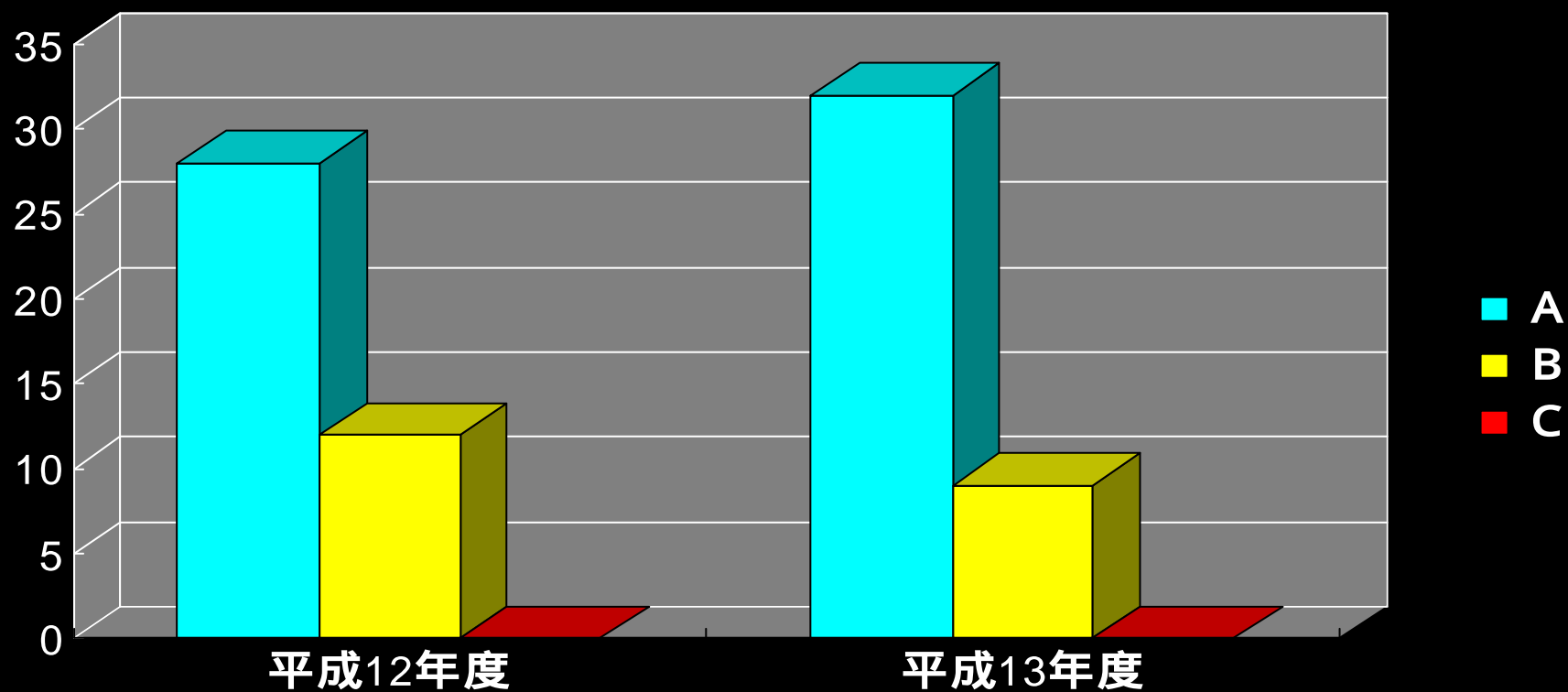
皺



伸展時の気泡



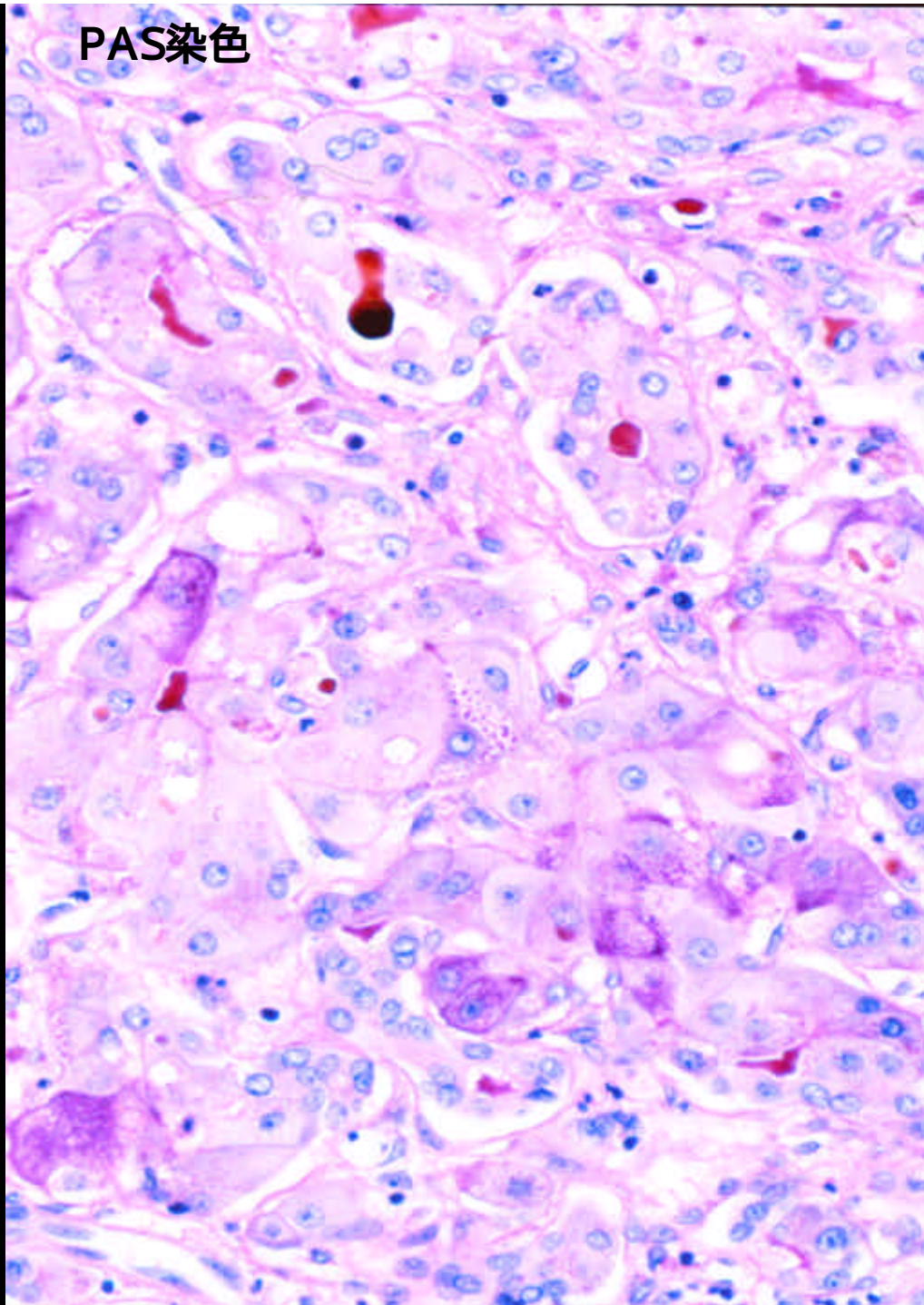
HE染色評価 (昨年度との比較)



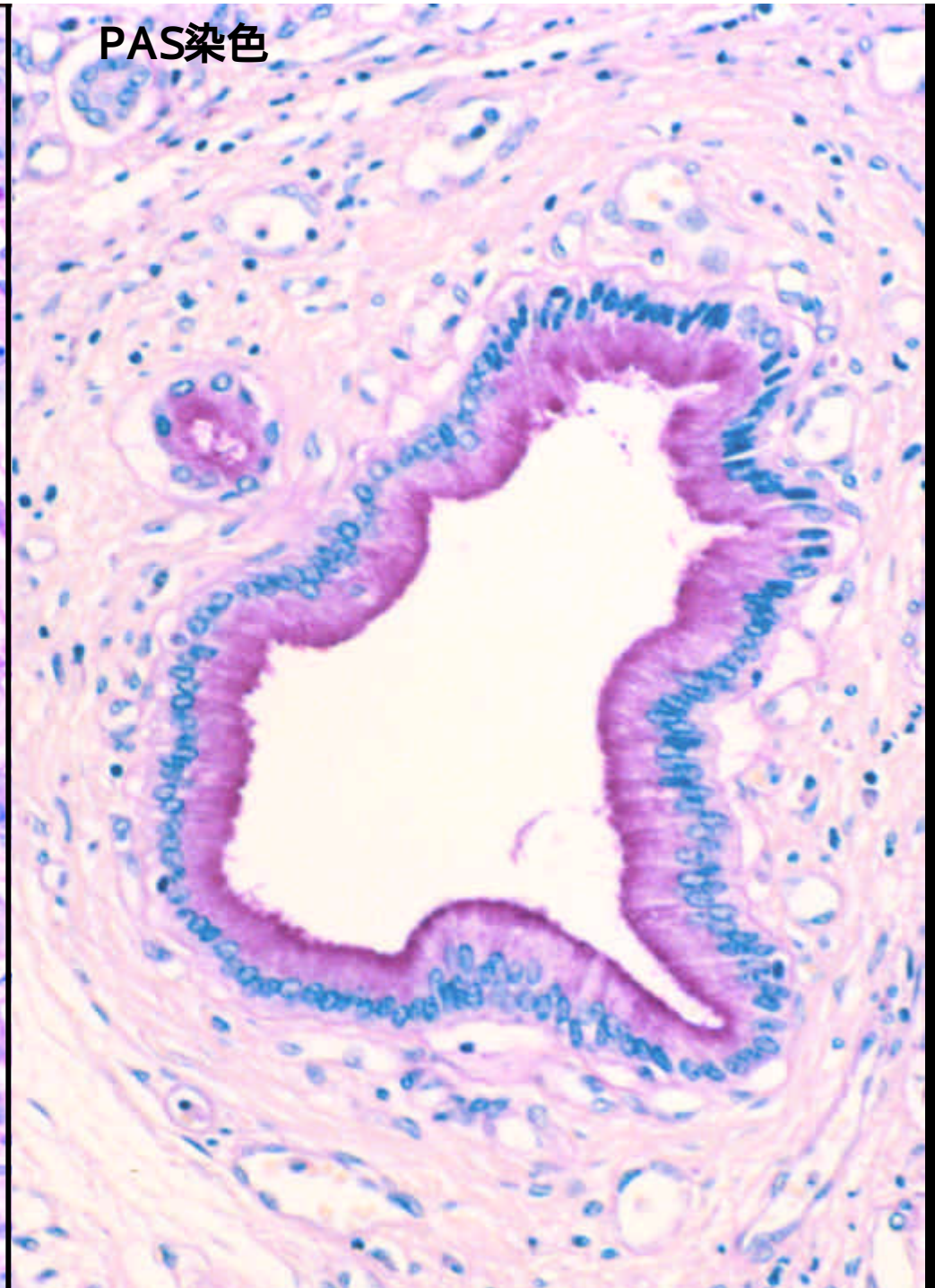
PAS染色標本評価表

評価項目	配点
グリコーゲンの染まり具合	3
共染色の有無と程度	3
合計	6

PAS染色



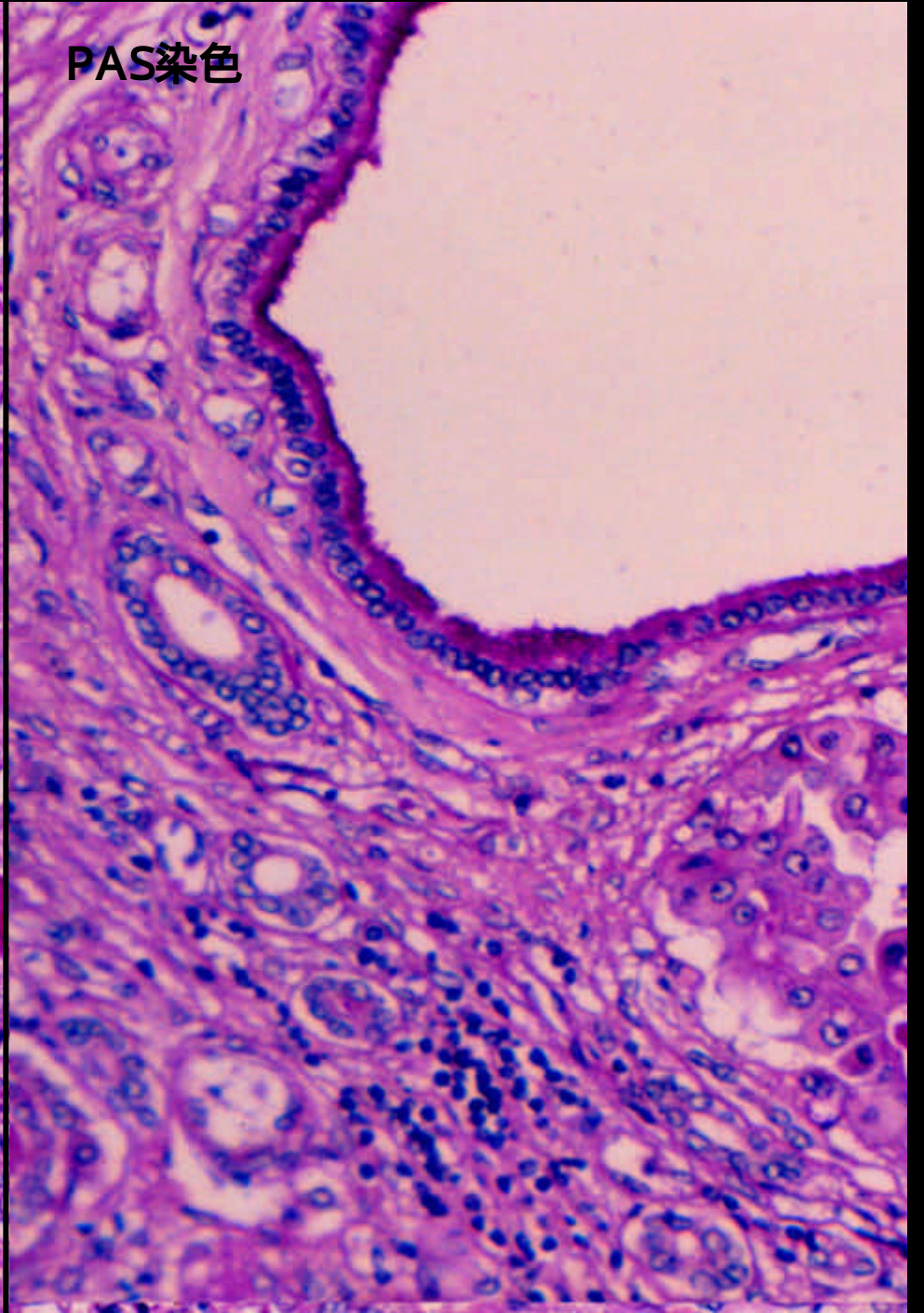
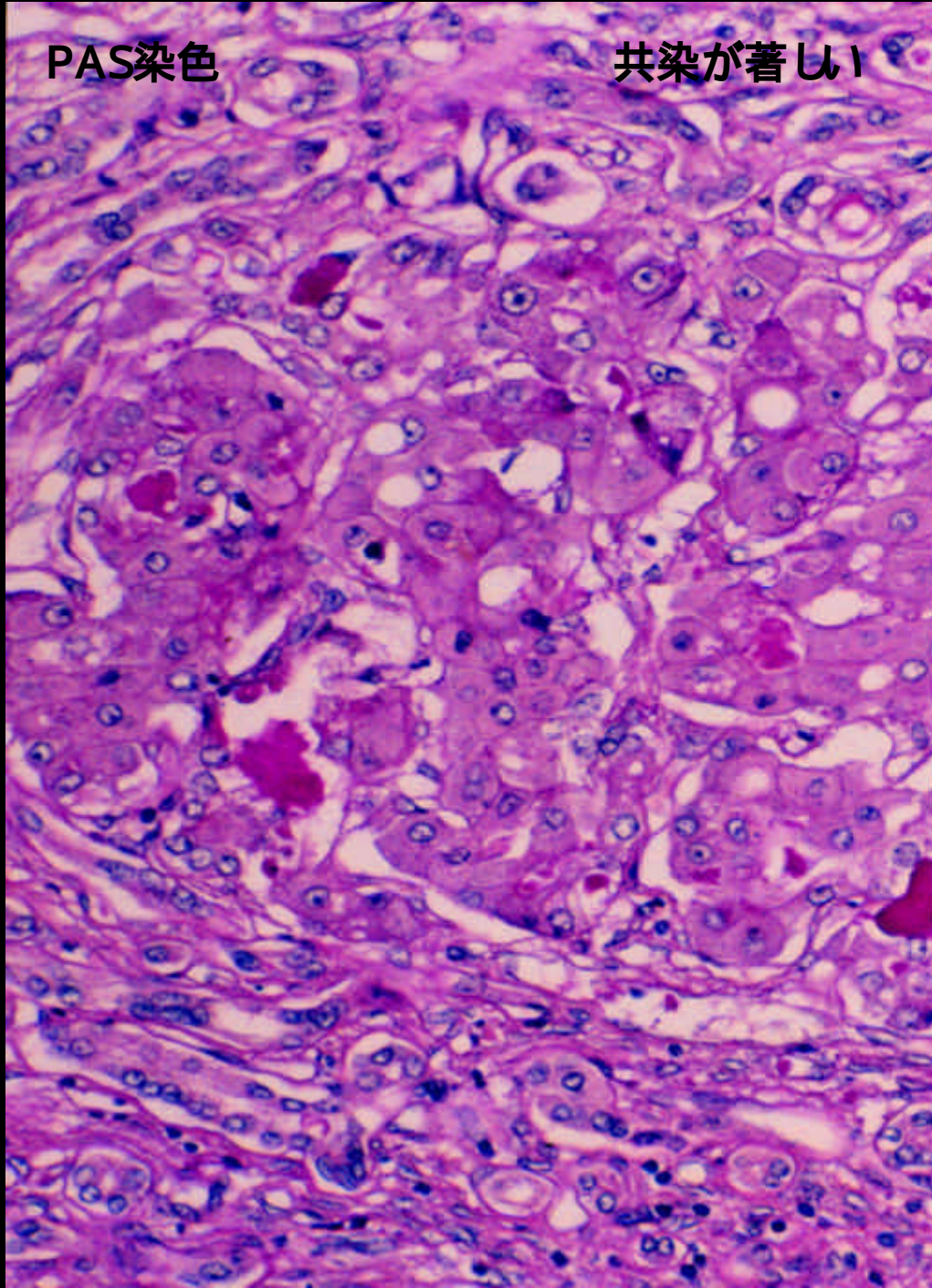
PAS染色



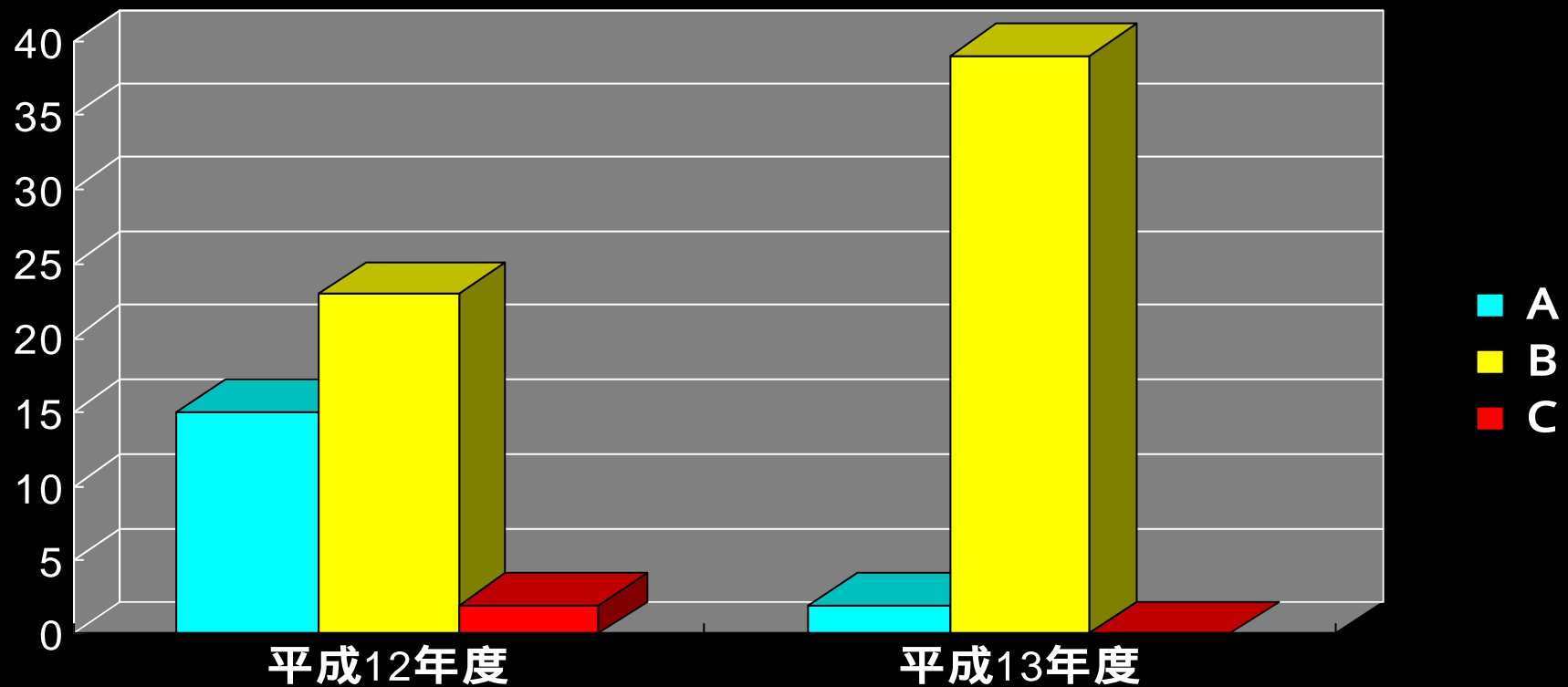
PAS染色

共染が著しい

PAS染色



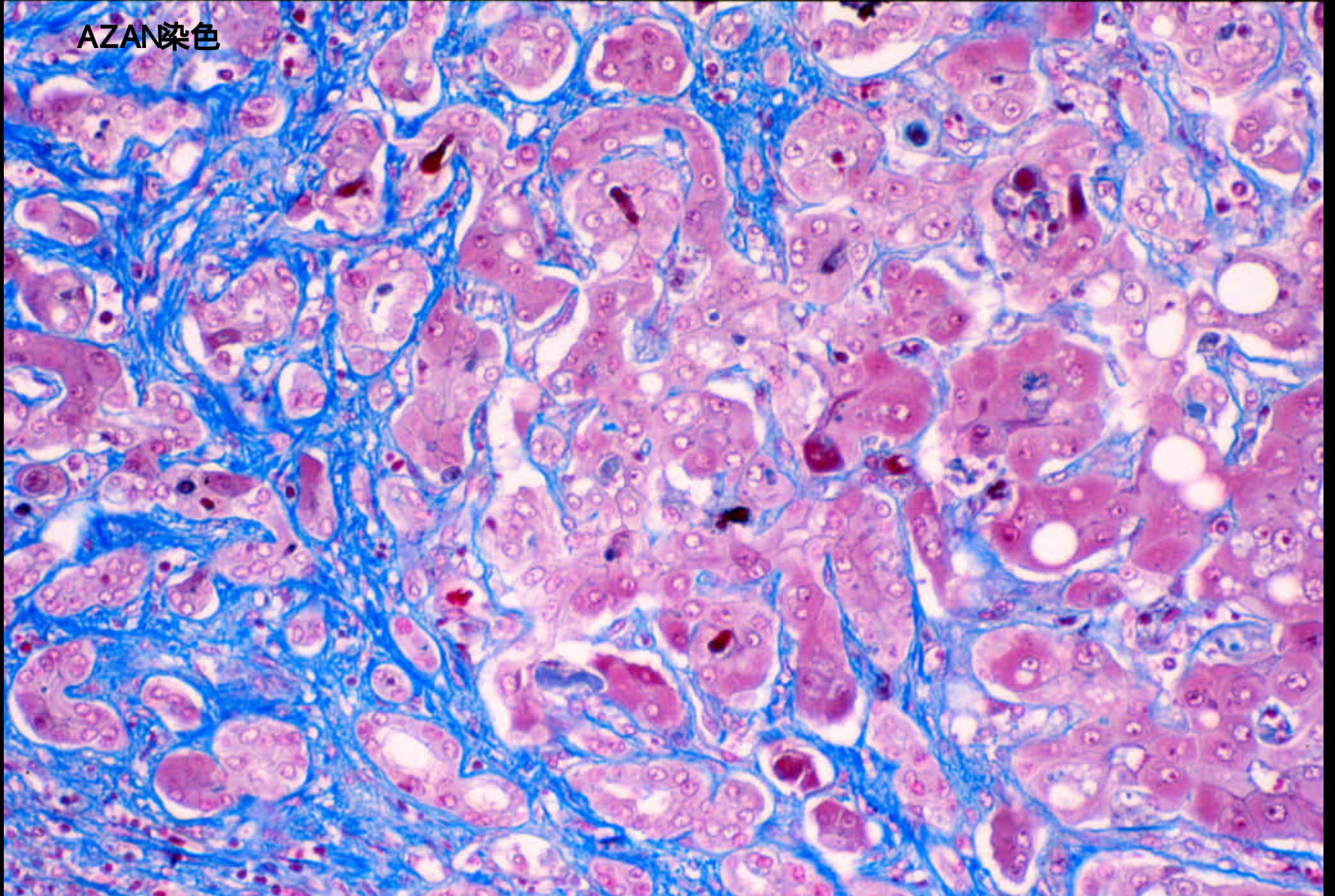
PAS染色評価 (昨年度との比較)



膠原線維染色標本評価表

評価項目	配点
膠原線維の染色性	3
共染色の有無と程度	3
核の染色性	3
合計	9

AZAN染色

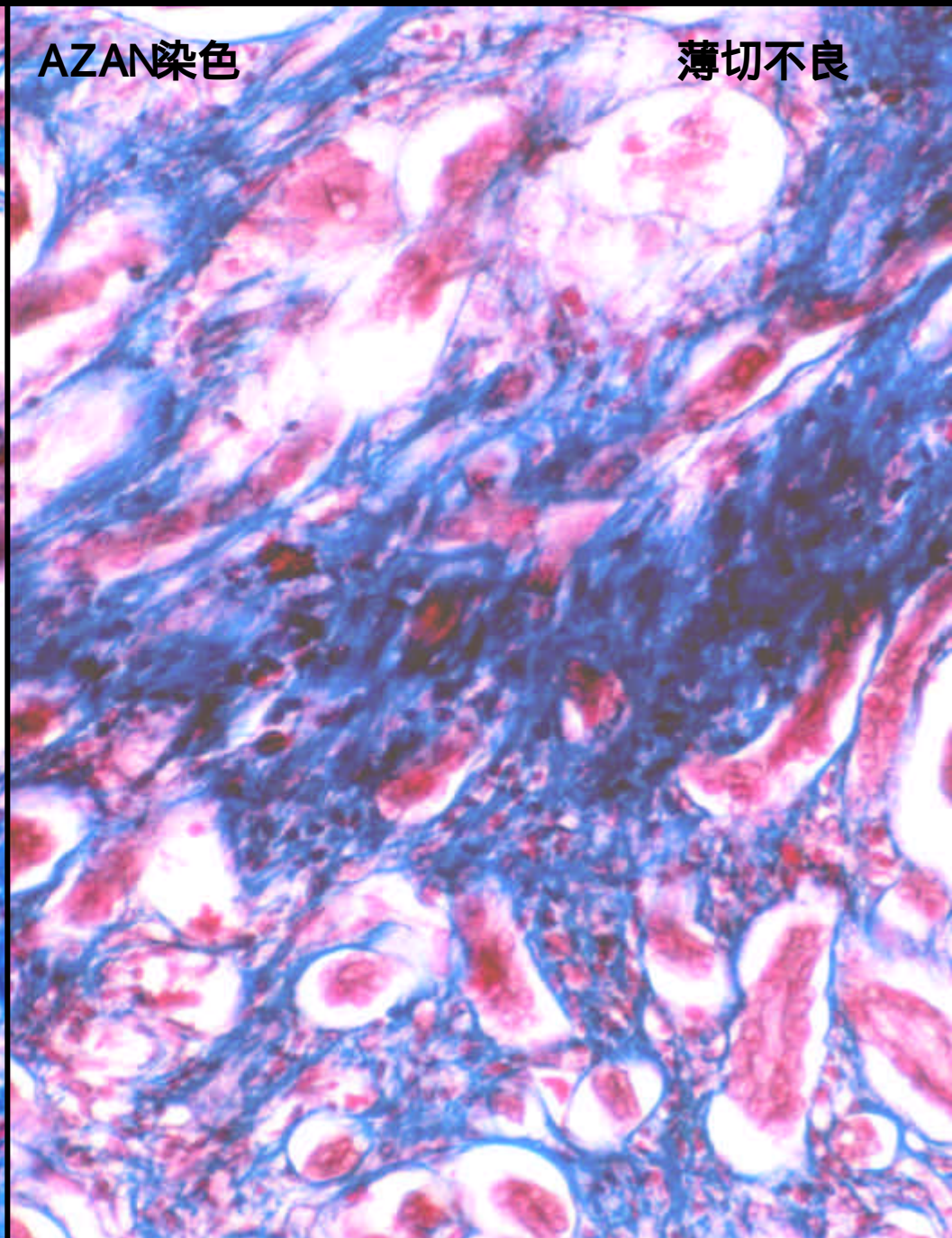
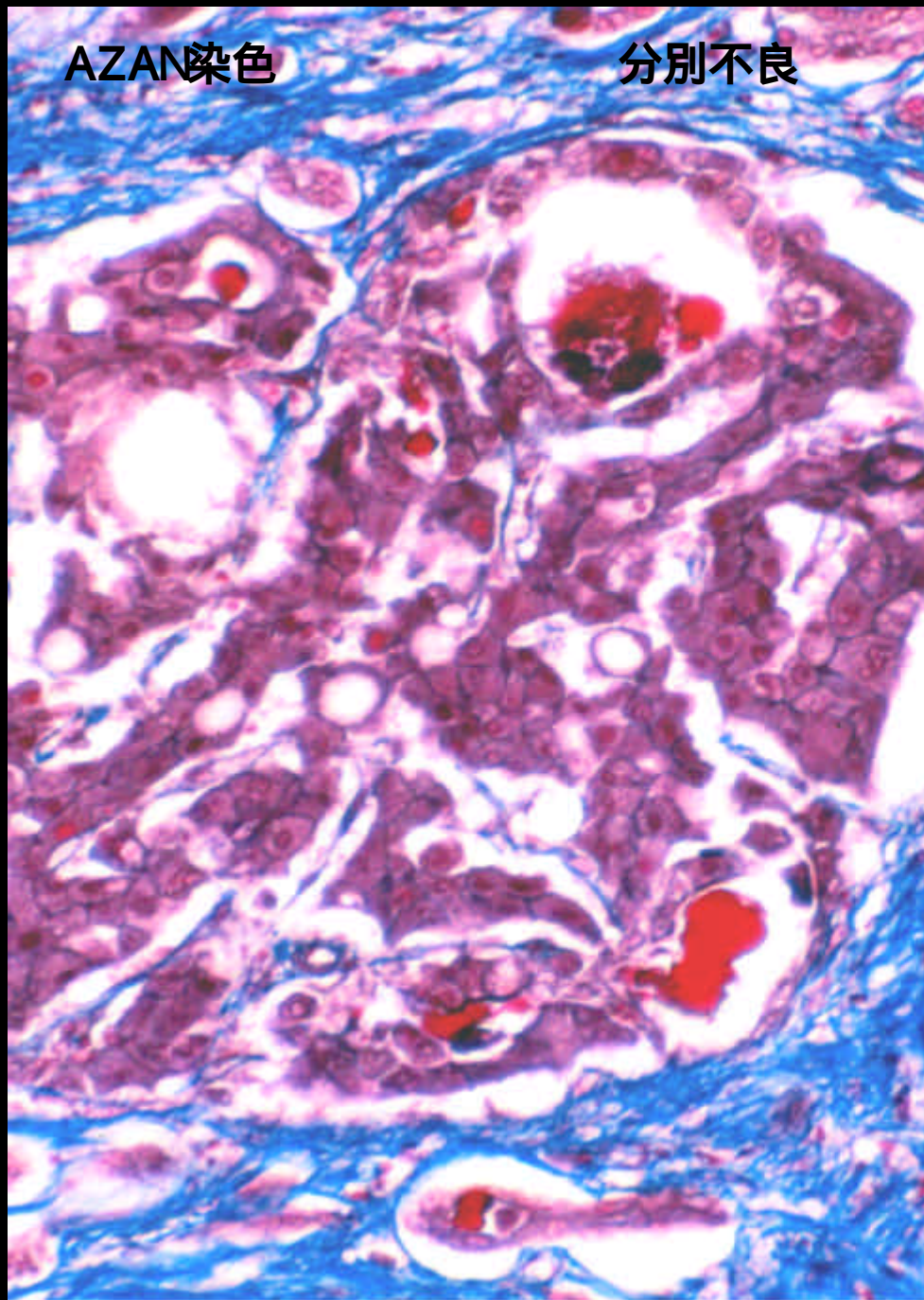


AZAN染色

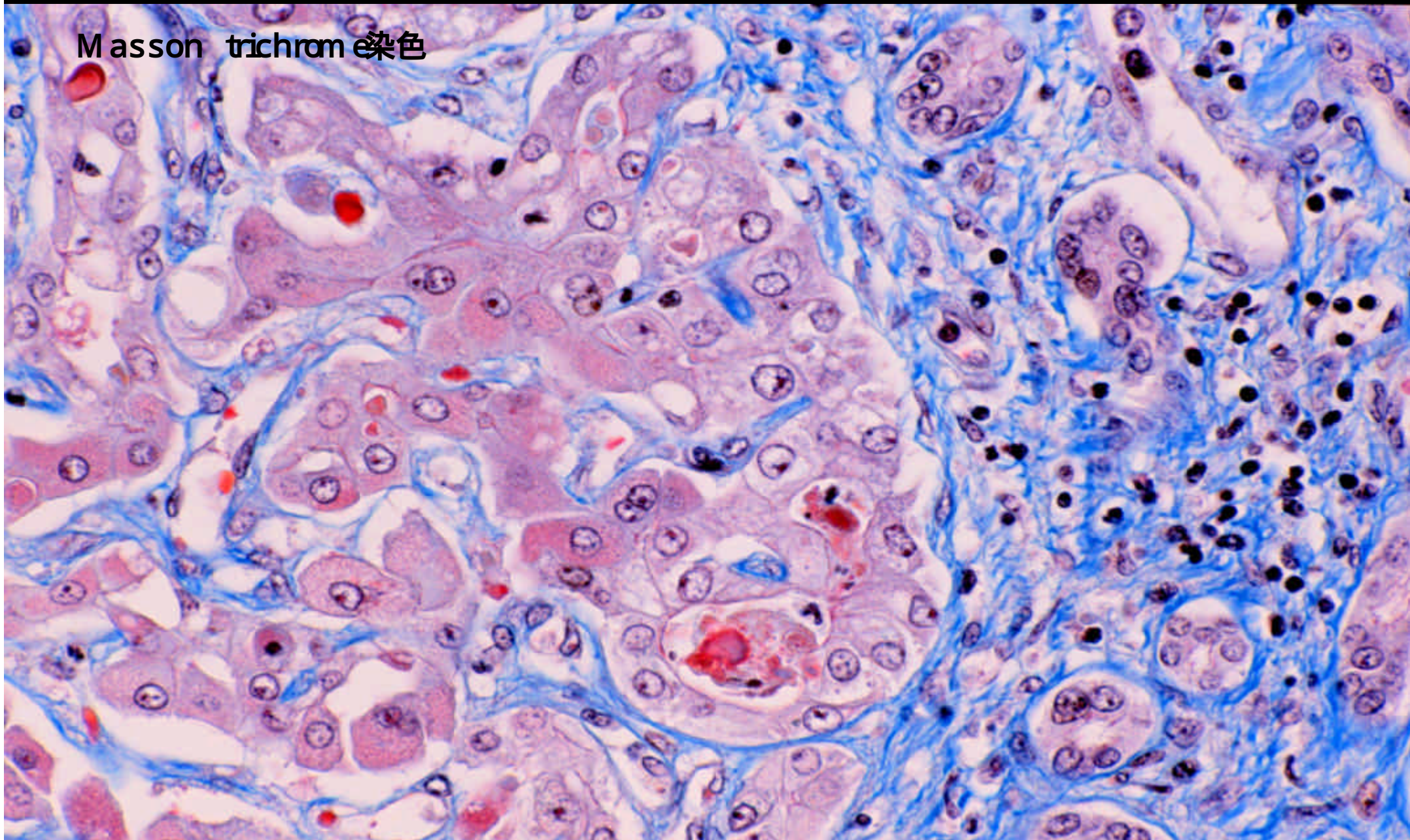
分別不良

AZAN染色

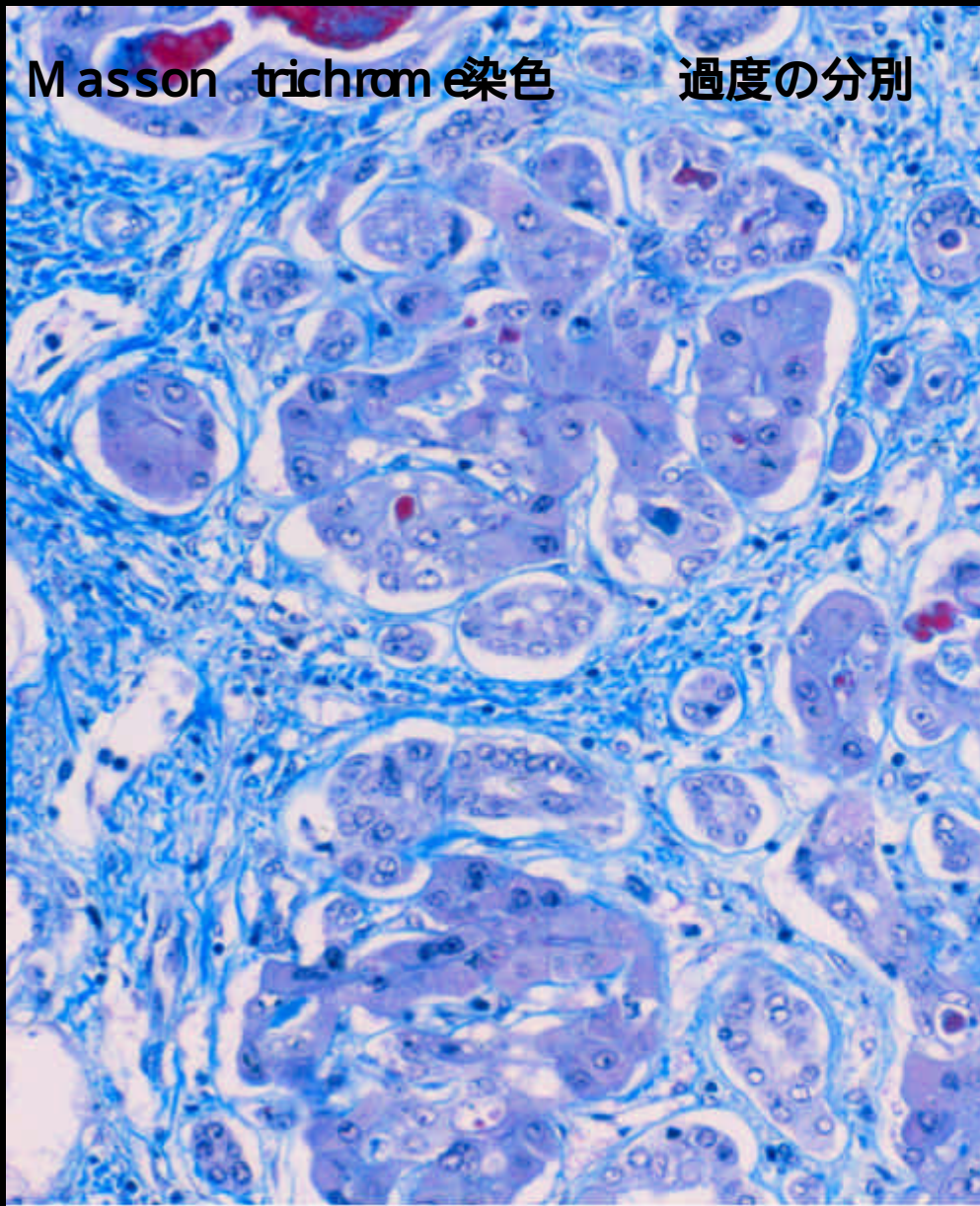
薄切不良



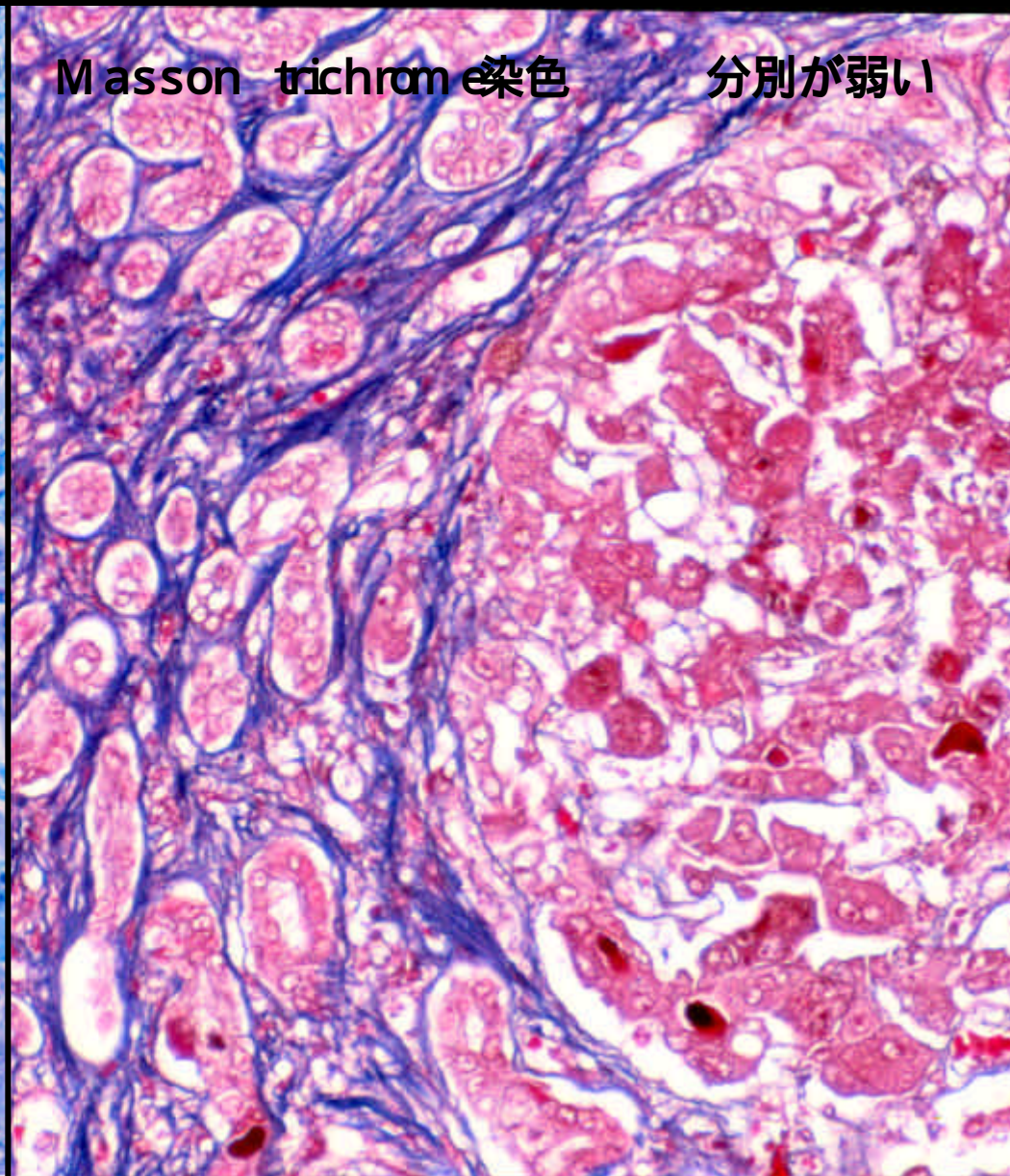
Masson trichrome 染色



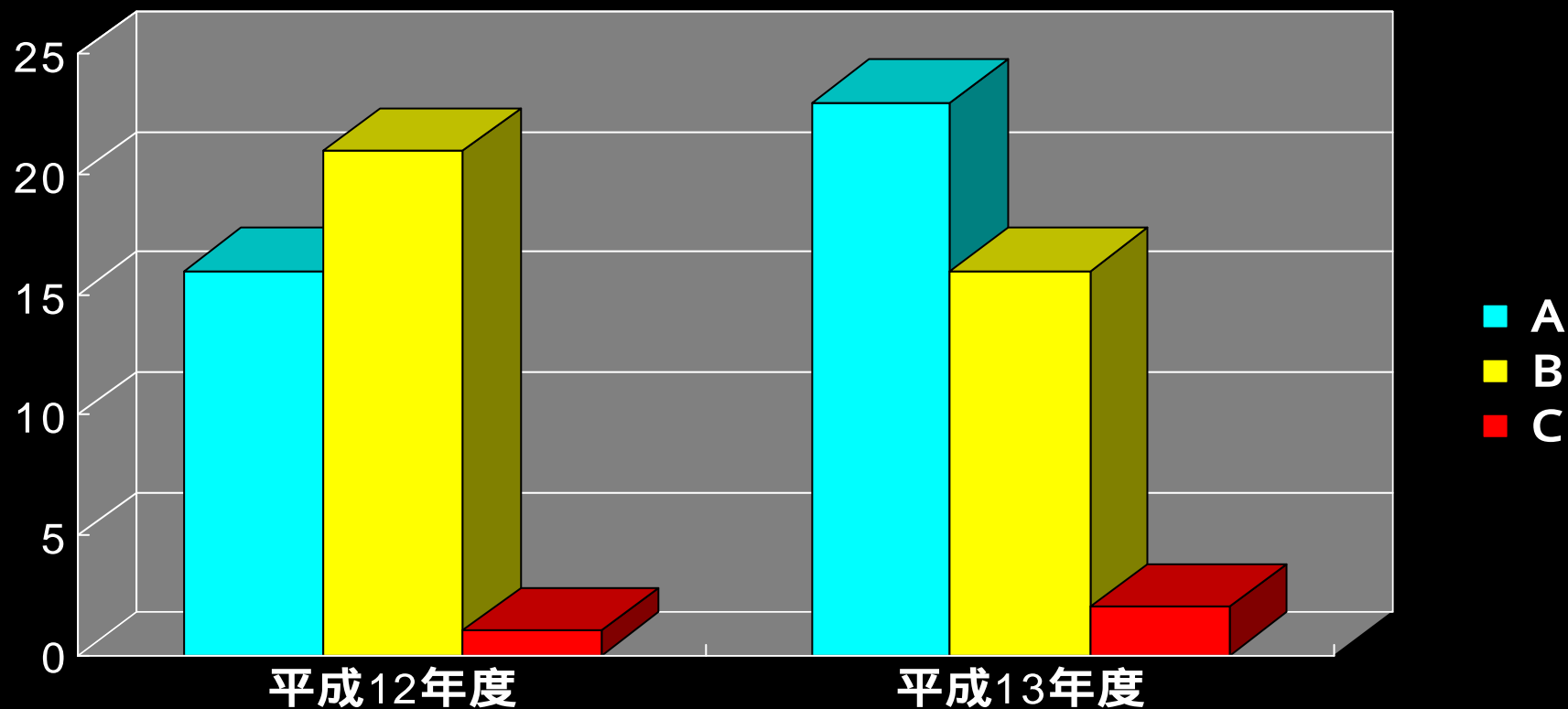
Masson trichrome 染色 過度の分別



Masson trichrome 染色 分別が弱い



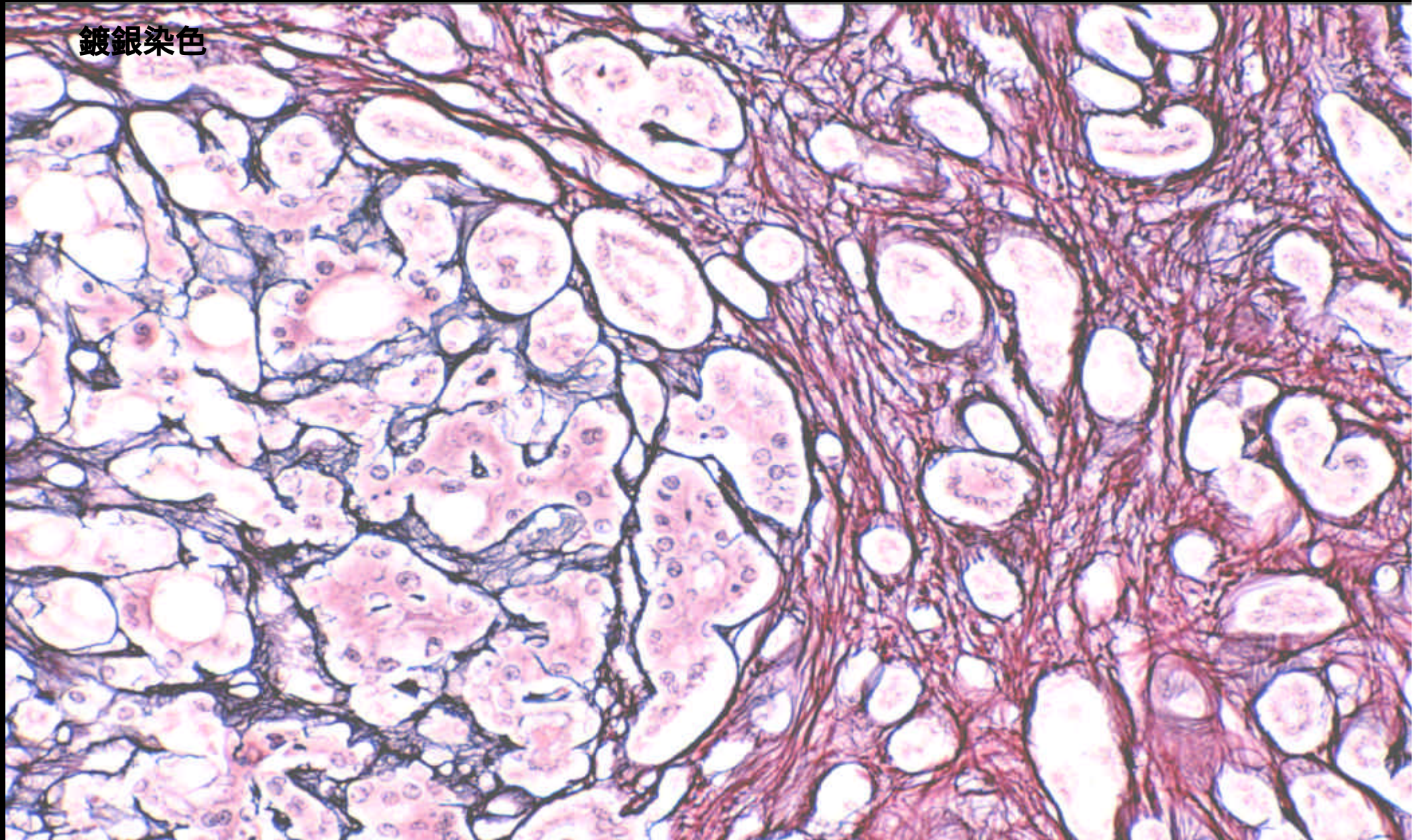
膠原線維染色評価 (昨年度との比較)



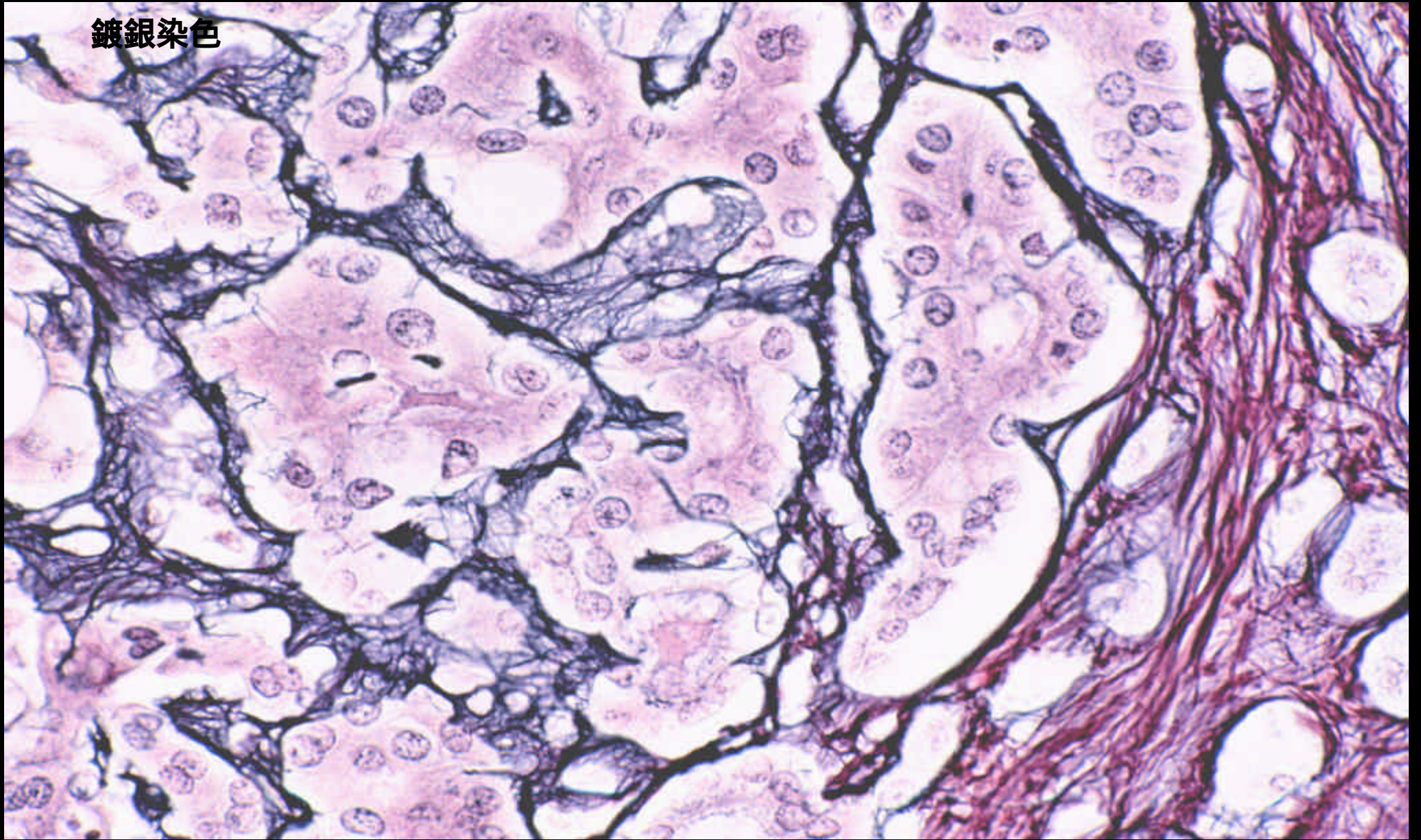
鍍銀染色標本評価表

評価項目	配点
鍍銀に適した厚さに切れている	3
格子線維の染色性	3
核の染色性	3
合計	9

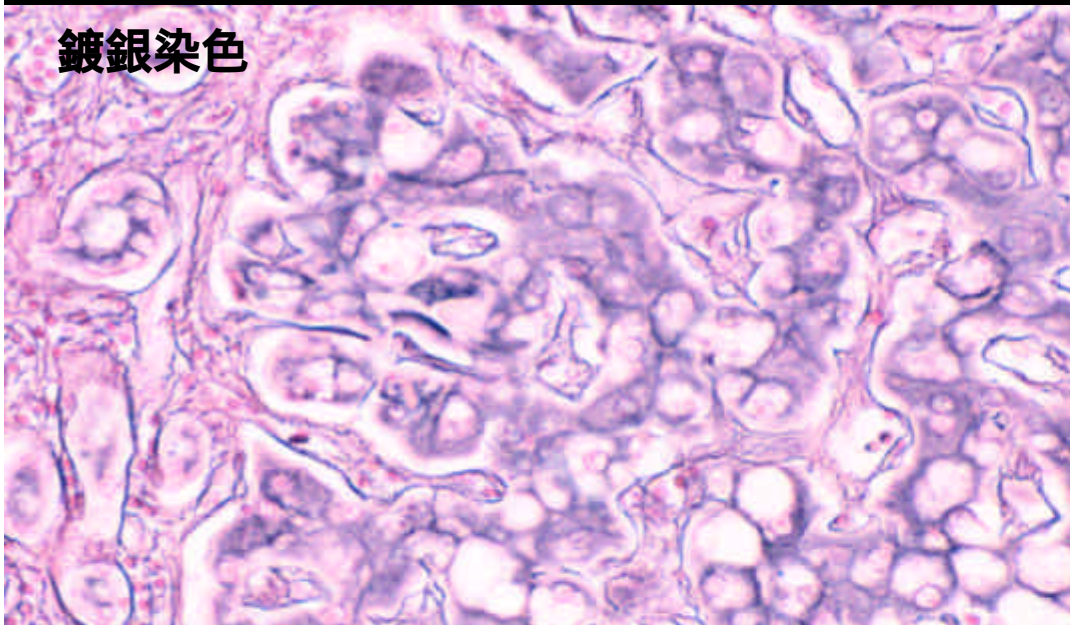
鍍銀染色



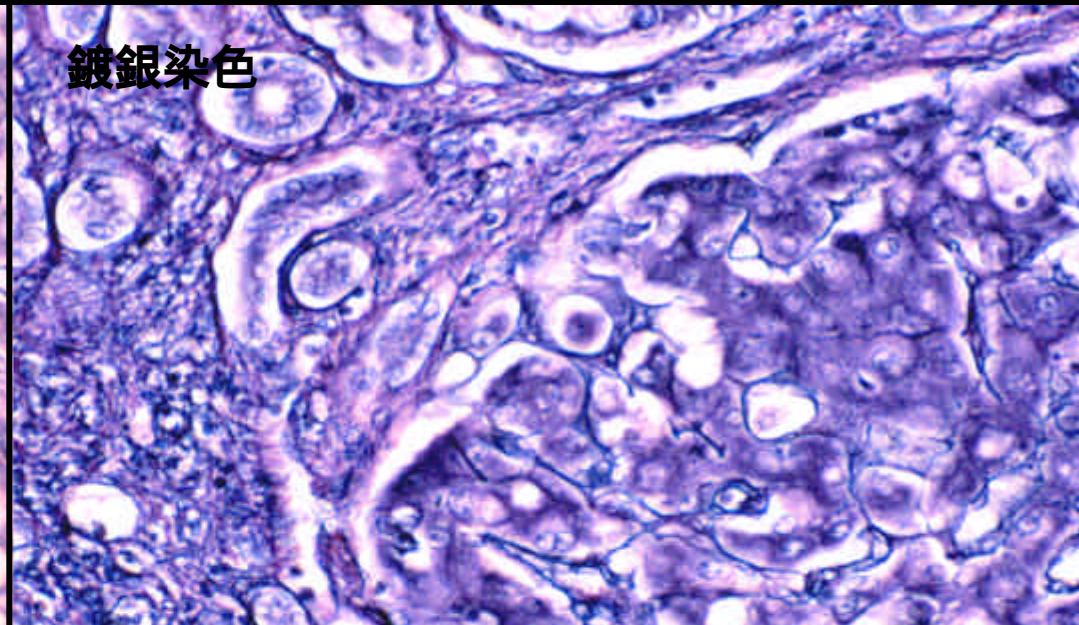
鍍銀染色



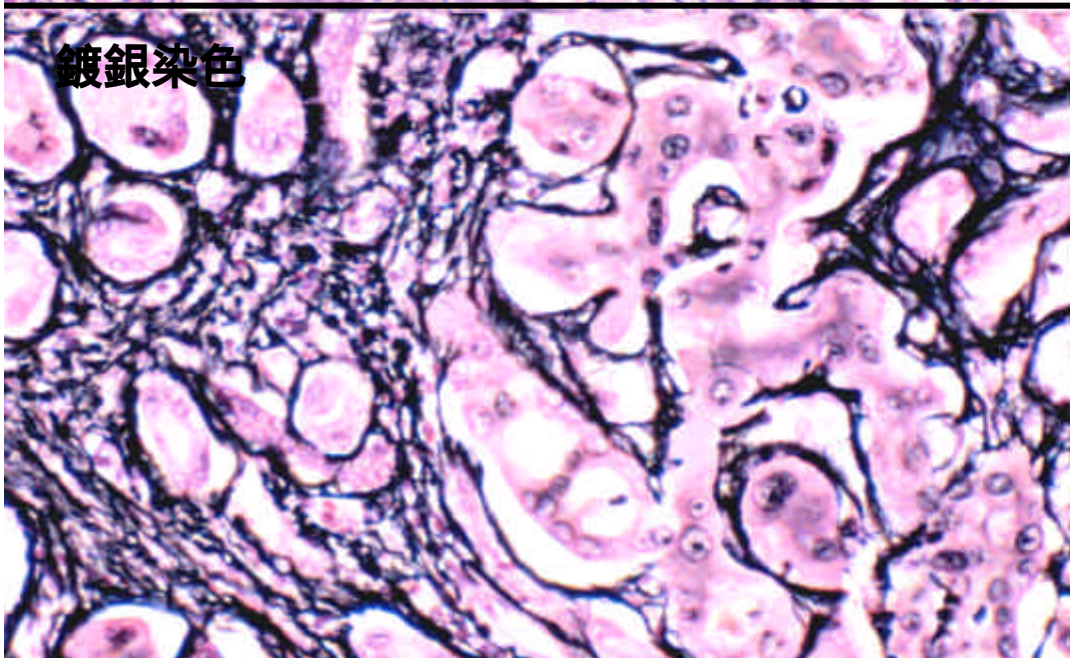
鍍銀染色



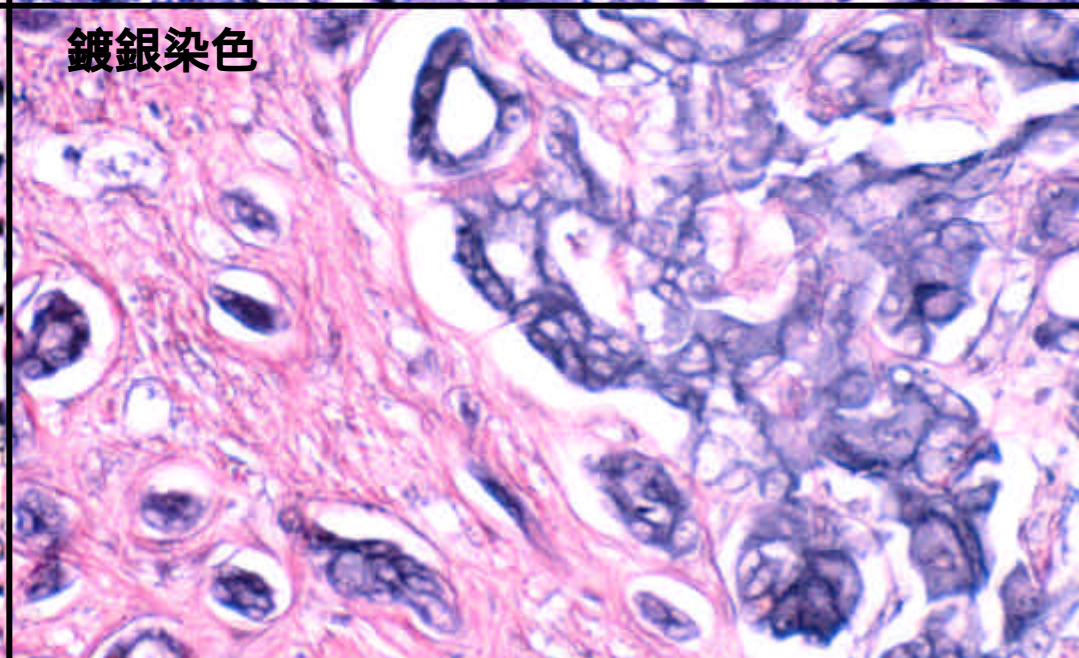
鍍銀染色



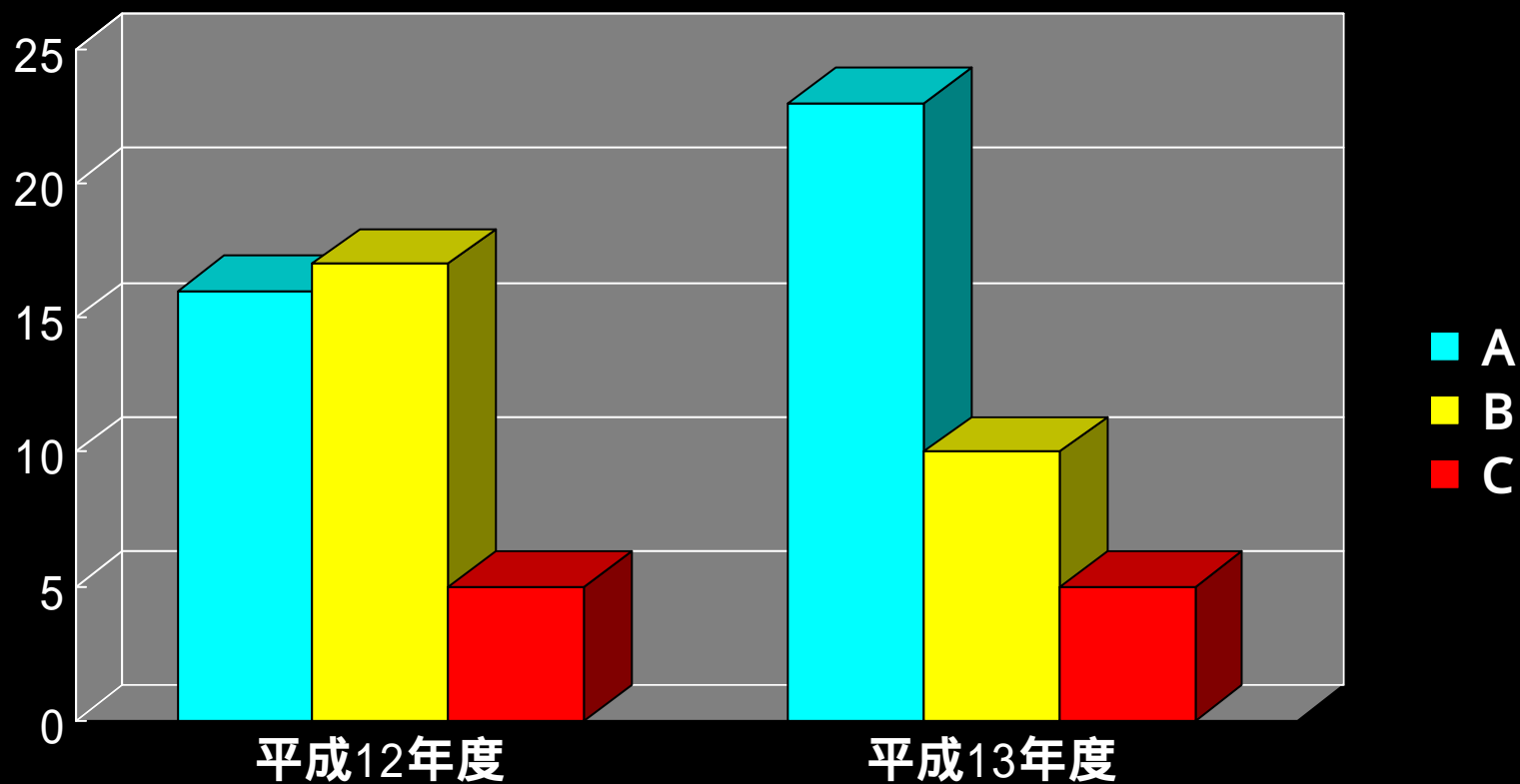
鍍銀染色



鍍銀染色



鍍銀染色評価 (昨年度との比較)



平成13年度千臨技病理検査研究班 精度管理総括

今回は41施設の参加を得て、染色標本の評価およびアンケート調査を行った。染色標本評価については各項目の評価点と合計評価点に加え、各染色について総合評価としてA B Cの3段階評価を行った。

評価結果

H E 染色は、全施設で診断に支障のない標本が作製されていたが、数施設で共染のためコントラストの低下を認めた。それら施設はいずれもマイヤ - のヘマトキシリンを使用しており、試薬の劣化等が考えられる。P A S 染色は目的とするグリコ - ゲンの染色性に施設間差が認められた。膠原線維染色は、共染を伴う施設を認めるが、分別操作を注意深く行うことで染色性の改善が期待できると考える。鍍銀染色では、細網線維と膠原線維の染め分けがなされていない施設を認めた。提出臓器にも多少問題はあると思われるが、各施設において酸化時間等を含めた反応時間の検討を行う必要があると思われる。

目標に向けて

今回で7回目の精度管理となった。今回の精度管理試料は肝硬変の強い組織であったため各施設で染色操作に苦慮されたことが伺えたが、継続的な課題であった鍍銀染色と膠原線維染色において診断上問題となる標本が数施設みられ、今後も引き続き精度管理の課題となった。

各染色について評価Cの施設には、今年もコメントを添えた評価表の配布を予定しており、改善の参考になることを期待する。今年も例年通り標本供覧の精度管理報告会を開催する。他施設の多くの標本を観察し染色操作の参考にしていただきたい。多くの方々の参加を期待する！！